

中高一貫教育だより

～広尾の子どもは広尾で育てる～

第61号

令和4年
9月発行

発行者
広尾町中高一貫教育推進委員会

北海道広尾高等学校長 小島 政裕



新型コロナウイルスが流行してから3年目を迎えました。これほど長期間にわたりさまざまな制限が続くとは想像していませんでした。そのような中でも、やれることを粛々と行ってきました。広尾町中高一貫教育連絡協議会の活動も、コロナ禍で活動が制限される中、5月の中高合同部会に始まり、約2か月に1回の事務局会議と推進会議、年に2回の連絡協議会。各分掌の連携による中高合同清掃や中高生徒会交流、各教科によるSCC（中高一貫校相互乗り入れ授業）、部活動交流等が行われています。また、高校生活について中学生に説明する「中高語り場」や高校3年生がどのように進路実現を果たしたのかを話す「中高一貫進路講話」、高校2年生が自ら体験したインターンシップの活動について中学生に発表する「インターンシップ発表会」、「授業参観」や「特別支援生徒交流」等、様々な活動をとおして中学生と高校生、中学校教員と高校教員のつながりが保たれています。SCCにおいても、高校生が中学生を指導する場面や、高校教員が中学生に授業をしたり、中学校教員が高校生に授業をしたり、英語検定や漢字検定等を合同で行う等の活動が行われています。

平成18年度（2006年度）からスタートした「広尾町連携型中高一貫教育」も今年で17年目を迎えました。「郷土広尾を愛し、心豊かに学び、新世紀を逞しく、主体的に生きる人を育てる～地域の教育力を結集し、広尾の子どもは広尾で育てる～」を理念に掲げ、多くの町の方々と中高の教職員の協力により、これまで歩んできました。高校は1年生から新学習指導要領となり、学習内容が変わりました。その一つに、「総合的な探究の時間」の中で「地域探究学習」を設定し、地域の教育力を生かす取組を行っています。今年度は広尾町地域おこし協力隊の方8名をお招きし、地域職業座談会を開催したり、JICA北海道道東営業課より2名をお招きし、SDGsについてお話しただいたりしています。その道の専門家にお話しいただくことには実感が伴っており、生徒の興味関心をかき立ててくれています。その道のプロの話を聞くことは生徒の進路活動において大変有意義なことです。町内にはまだまださまざまな専門家がいらっしゃいます。そういった方々とネットワークをつなぎ、高校に足を運んでいただくようにしていきたいと思っております。

中学生数の減少により、現在、1、2年生が1間口となりました。毎年、広尾中学校からは60%を超える位の入学生がおりますが、中学生数も減少していることから、来年度で1間口が完成する可能性があります。

しかし、間口が減少しても、教育の質は変わりません。生徒一人一人を大切にする学校の方針も変わりません。今年度からスタディサプリを導入し、一人一人の学力に応じた課題に取り組ませています。これまでも8年連続進路実現100%を達成しています。中学生諸君、就職から進学まで幅広く対応している広尾高校で、ぜひ自分の夢を実現しましょう。

広尾町中高一貫教育合同部会議開催のご報告

5月11日（水）広尾中学校体育館において、広尾町中高一貫教育合同部会議を開催いたしました。

（１）会議の経過

開会挨拶として広尾高校の小島政裕校長、菅原康博教育長にお話を頂いた後、現在の組織体制の見直しや、中高一貫教育の目指す方向性について全体会議で確認をしました。



（２）中高教科部会の様子と実践テーマ

今年度の教科部会は、国語科、社会科、数学科、理科、英語科、保健体育科、家庭科、養護の8部会に分かれて開かれました。



①『国語科部会』

【実践テーマ】

- 1 生徒が論理的に展開する文章を書けるようになるための作文指導の在り方
- 2 生徒が積極的に日本の伝統的な言語文化を親しむための授業の在り方

②『社会科【地歴・公民】』

【実践テーマ】

- 1 中高の連携活動を活かした効果的な学習指導の工夫基礎・基本の定着を目指した中高相互乗り入れ授業の実践
- 2 中高6年間の学びもれのない、きめ細やかな連携教育を目指した教育課程の研究中高基礎学力テストの分析等による、中高6年間を通して重点的に指導すべき学習領域の検討

③『数学部会』

【実践テーマ】

基礎的・基本的な知識や技能の習得を目指した数学的活動の工夫

- 1 ティーム・ティーチングの工夫
- 2 高校チューター学習の研究・実践



④『理科部会』

【実践テーマ】

- 1 乗り入れ授業や共同実験及び授業参観での生徒の実態の把握を通し、6年間の見通しをもった指導の反映
- 2 基礎・基本の定着の推進とともに、自然科学に対する関心を高めることをねらった実験や観察方法の開発

⑤『英語部会』

【実践テーマ】

生徒自身が、自分の学習到達度を理解できる CAN-DO-LIST と Classroom English の効果的な運用



⑥『保健体育部会』

【実践テーマ】

- 1 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさを深く味わい、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を高める。
- 2 運動における協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、一人ひとりの違いを大切にしようとする意欲や態度を育てる。

⑦『家庭科部会』 【実践テーマ】

- 1 6年間を通して発達段階に応じた系統的な学習内容により、家庭生活における基礎的・基本的な知識や技術の定着を図る指導の実践
- 2 被服および調理実習におけるTTの実践による生徒個々の能力に応じた個別指導の充実

⑧『養護部会』 実践テーマ

1. 生徒・地域の実態や健康課題の共有と対応策の検討
2. 生徒・地域の実態をふまえた保健指導・カウンセリングの充実



(3) 各分掌部会の様子と実践テーマ

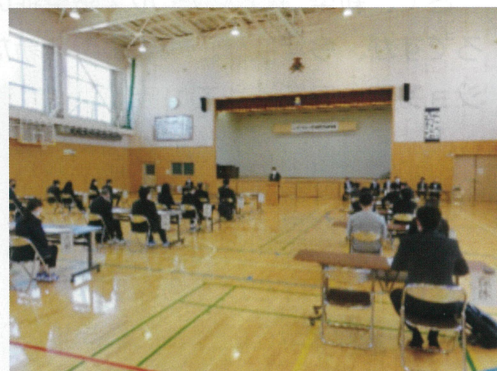
①教育課程・学習指導部会

基礎・基本を定着させ、確かな学力を向上させる。
～6年間の発達段階に応じた学習指導の充実～

②特別活動・生徒指導部会

実践テーマ

- 1 学校行事を共同開催し、中学生、高校生が連帯感を高め、協力性を学ぶ。
- 2 日常の生徒指導の交流と、中高連携による生徒指導の実践を行う。



③進路指導・総学部会

- 1 6年間を見通したキャリア教育の実践
- 2 6年間の進路指導を通して、個々の生徒に関する具体的な情報を連携2校で共有するシステムの構築
- 3 異学年間での合同学習を通じた、表現力や問題解決能力の伸長
- 4 地域理解を深め、地域に貢献する生徒の育成

④広報啓発部会

実践テーマ

中高一貫教育だよりの発行を通して、生徒・保護者・地域住民への広尾町中高一貫教育の活動状況等について発信する。



⑤特別支援部会

実践テーマ

- 1 中高の連携・協力した指導方法・指導計画の研究
- 2 関係機関と連携した教職員の専門性の向上に関する取り組み

新たな挑戦

広尾町立広尾中学校長 伊澤 理紀

昨年度、広尾中学校に赴任し本町の中高一貫教育の取組について見てきました。中高の教職員が相手校にて授業を行う SCC（中高一貫校相互乗り入れ授業）、中高全校生徒による清掃活動や生徒会や部活動での交流など生徒・教職員が活発に連携を図っています。中でも高校生によるインターンシップ発表会、語り場、進路講話は、中学生にとって身近な先輩から進路・キャリアについて学ぶことができる貴重な機会となっています。

さて、新型コロナウイルス感染症の収束は、まだ見えないところですが、今年度は、次のような新たな取組、既存の取組のバージョンアップを進めています。

①中高の日課を同じにしました。

授業の開始時間を統一することで、行事や SCC などがさらに円滑に行うことができます。

②キャリア学習を前倒しにします。

これまで、インターンシップ学習会の中2、語り場は中3、でおこなっていましたが、それぞれ1年早めて、より早く進路について学び始めるようにします。

③検定（漢字、英語、数学）受検を促進します。

これまでは、4級以上が受検料補助の対象でしたが、対象を5級（小学校卒業程度の内容）からにし、中1から挑戦できるようにしました。

④サンタランドへの参加。

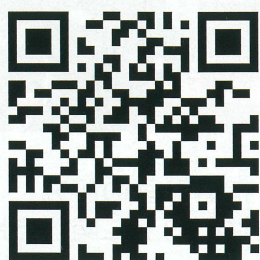
全校でウッドイルミネーションを製作したり、生徒会を中心に高校での取組への参加も考えています。

広尾中学校では、「誇りを胸に挑戦する生徒の育成」を重点教育目標としています。

中高一貫教育の取組を通して、生徒一人一人が「できる」「わかる」を実感し（＝ 自分大好き）、地域のヒト・モノ・コトとの関わりを深め（＝ ひろお大好き）、そしてこれらを土台に、「課題や困難にくじけず」、そして「夢や目標に向かって挑戦」し続ける生徒の育成に努めていきます。



中学校と高校の取り組みにつきましては、本紙のほかに、下記ホームページ・ブログでもご紹介しております。広尾町のページでは、本紙のバックナンバーもご覧いただけます。ぜひご訪問ください。



広尾高等学校公式 HP



広尾中学校公式ブログ



広尾町公式 HP